

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）
追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
作成基準日 : 2018年 8月31日
決算日 : 毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間 : 原則として無期限

お知らせ

『Morningstar Award “Fund of the Year 2017”
(ファンド オブ ザ イヤー 2017)』において
GCI エンダウメントファンド（成長型） が
最優秀ファンド賞【バランス（成長）型部門】
を受賞しました。



Morningstar Award “Fund of the Year 2017”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスターが信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社並びに Morningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

当賞は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2017年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスターが判断したものです。バランス(成長)型部門は、2017年12月末において当該部門に属するファンド808本の中から選考されました。

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日：2015年 9月25日
 作成基準日：2018年 8月31日
 決算日：毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間：原則として無期限

ファンドマネージャーのコメント

<運用の基本スタンス>

さまざまな市場環境を乗り越えて、長期間にわたるすばらしい運用実績を残してきたエンダウメント（大学財団）型の投資戦略をお手本に、オルタナティブ投資を積極的に活用したグローバル投資を行います。リスクとリターンの源泉を分散・多様化するとともに、運用コストにも注意を払い、運用資産の長期的成長を効率的に目指します。

「GCIエンダウメントファンド」の運用手法はシンプルかつ頑健（Robust）です。原則として年一回、基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）を決定した上で、適宜リバランスを実行し、資産配分を維持します。また、長期スタンスで円資産のリスク・リターン効率化を図るため、為替リスクは原則としてヘッジします。

基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）は、想定リスクを成長型で年率8%、安定型で年率5%にセットし、対象資産の流動性やキャパシティ（市場規模）などを吟味して選択した投資対象ユニバースの中で、最良の期待リターンとなるように配分比率を決定します。その時々々の市場動向やムードなどに振り回されず、取引コストを抑制しながら、一定のリスクを効率的に取り続けるという、ブレのない運用姿勢を貫きます。

<ビッグ・ピクチャーと基本資産配分>

当ファンドの決算日である2017年9月26日に、一年に一度の基本資産配分（ターゲット・ポートフォリオ）見直しを行いました。その前提となるビッグ・ピクチャーは、10年程度の時間軸でマクロ環境を俯瞰したのですが、次の通り変更ありません。

第一に、21世紀直前に本格化したグローバル化という世界史的イベントに伴い、デフインフレーション環境が続いています。グローバル化の恩恵を最大限に享受してきた新興国経済の急成長が一段落したこともあり、このデフインフレーション環境は長期化するものと考えています。

第二に、新興国圏の成長速度が大きく鈍化した結果、先進国圏と新興国圏の乖離（デカップリング）が金融市場に影響を与える可能性があります。とくに、米国経済が相対的に好調であるとのコンセンサスの下、2014年からドル高基調が続いています。ドル高は、新興国経済にとっては逆風です。1997年のアジア通貨危機がその典型例です。依然として底堅い中国経済ですが、景気循環や人口動態など国内固有の要因に加えて、ドル高という負荷が二重にかかると考えています。

以上のビッグ・ピクチャー自体は今回も不変ですが、2008年の金融危機以降一貫して続いてきた中央銀行の金融緩和政策に変化が見られます。この間、債券・株式を含むほとんどの資産価格が上昇し続ける特異な環境でしたが、どのような影響があるのか注視しています。以上のビッグ・ピクチャーをもとに、調整局面の到来に備えて慎重姿勢としてきた基本資産配分を変更せず、引き続き維持いたします。

オルタナティブ投資を得意とする当社の認識では、世界中の利回りが低下し、信用スプレッドが広がり、実物など低流動性資産にも大量の資本が向かった結果、流動性プレミアムも失われました。今春以降はボラティリティも過去経験したことのない水準まで下落しています。常識的には、大きな反動・調整が入ってもおかしくありません。

一方、情報技術革新の大波はグローバルな実態経済に大きなインパクトを与えようとしています。高値圏を更新している米国株式市場のバリュエーションに対しては警戒感も根強いのですが、こうした警戒感が払拭されるような株高に対する肯定的センチメントが醸成されない限り、むしろ循環的な株高が継続するのかもしれない。

当戦略は、どのような市場環境であっても、下落リスクを想定範囲内に抑制しながら、長期的安定的な資産価値の成長を目指してまいります。

GC | エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
作成基準日 : 2018年 8月31日
決算日 : 毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間 : 原則として無期限

<今月を振り返って>

冒頭から脱線して恐縮ですが、この月次レポートは、文字通り、ひと月をひとつの単位ととらえて、月末基準で運用状況をご報告することを目的に作成されています。しかしながら、少なくとも数年間、場合によっては数十年間という期間での長期資産運用を標ぼうするエンダウメント投資戦略にとって、一か月という期間はあまりに短く、その結果に拘泥するのは本意ではありません。実際、年金基金をはじめとする機関投資家に対しても、四半期に一度のペースで報告を行うのが一般的です。

毎月の結果に一喜一憂するのは得策ではないということなのですが、リスクをとって大切な資産を運用していただいている投資家のみなさまに対して、市場環境を中心とする全体感とともに、運用責任を担う立場から潜在リスクに対する感覚・感触をお伝えし、共有させていただくことは、長期資産運用にとっては「結果としての運用リターン」と同じくらい重要だと考えています。

本題に戻ると、2月初旬の調整以降、運用状況は横ばい圏で推移していますが、中身をみると米国のひとり勝ちといえるような状況で、ドル高・（米国）株高・（ドル）金利高です。市場の話題としては、貿易摩擦などトランプ大統領による影響が挙げられますが、個人的にはノイズ（一時的に市場を動かす雑音程度のもの）と考えています。リーマン危機後の主要中央銀行による歴史的金融緩和政策と、当時の米国経済の底割れを救うこととなった中国によるこれまた世界史的な景気対策がいよいよ転機にあるということが重要です。

運用開始から3年を終える9月末には、年一回の基本資産配分（政策ポートフォリオ）の見直しを行う予定ですが、引き続き、当戦略はオルタナティブ戦略を活用してリスクオフ局面への耐性を有する基本ポートフォリオを堅持し、粛々と運用を続けてまいります。



ファウンダー・代表取締役CEO
山内英貴

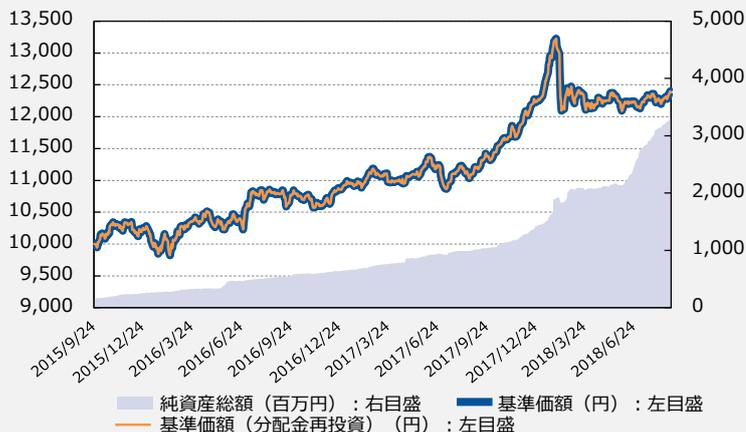
GC I エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

GC I エンダウメントファンド（成長型）

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
 ※ 基準価額 (分配金再投資) は、分配金 (税引前) を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です (後述のファンドの費用をご覧ください。)

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末
基準価額	12,387円	12,314円
純資産総額	3,322百万円	3,013百万円

期間別騰落率

	騰落率
1 カ月	+0.59%
3 カ月	+1.64%
6 カ月	-0.15%
1 年	+10.67%
3 年	-
設定来	+23.87%

※ ファンドの騰落率は、分配金 (税引前) を再投資したものと計算しています。

分配の推移 (1 万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 0 円

決算期	2016年9月期	2017年9月期	-
分配金	0円	0円	-円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

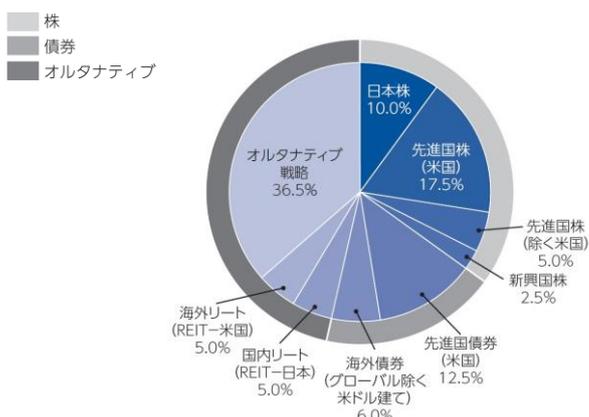
参考指標

	ファンド	東証株価指数 (TOPIX)	NOMURA-BPI総合インデックス
年率リターン	+7.7%	+9.4%	+1.3%
標準偏差	6.1%	19.0%	2.2%
下方偏差	6.6%	20.0%	2.3%
シャープレシオ	1.26	0.50	0.61
ソルティノレシオ	1.16	0.47	0.59
最大ドローダウン	-8.6%	-25.4%	-4.5%
相関	-	0.54	-0.05

※ 参考指標は全て円ベース。当ファンド設定来の期間で算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を250日として計算。時点：2018年8月31日。

※ 当月より、下方偏差とソルティノレシオの算出基準を変更しております。

基本資産配分 (作成基準日時点)



資産クラス	基本資産配分比率
日本株	10.0%
先進国株 (米国)	17.5%
先進国株 (除く米国)	5.0%
新興国株	2.5%
先進国債券 (米国)	12.5%
海外債券 (グローバル除く米ドル建て)	6.0%
国内リート (REIT-日本)	5.0%
海外リート (REIT-米国)	5.0%
オルタナティブ戦略	36.5%
合計	100.0%

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

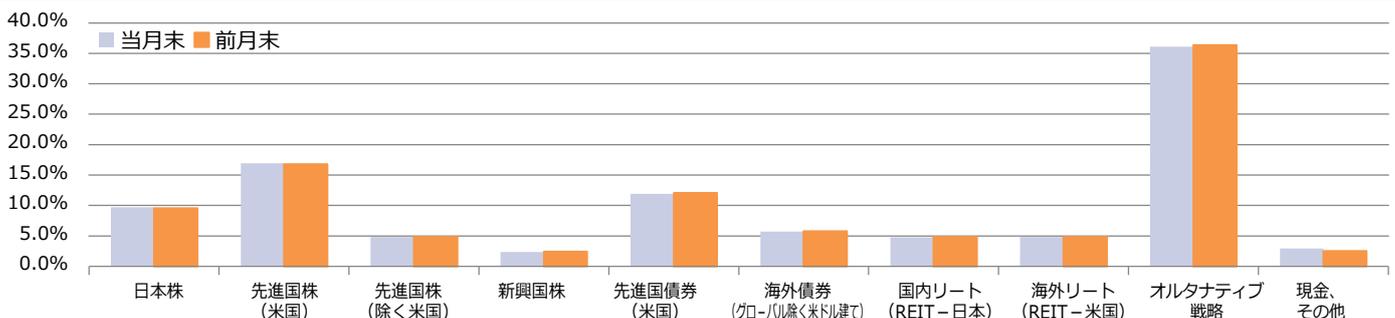
GCIエンダウメントファンド（成長型）

投資対象ファンド（投資信託証券）の状況

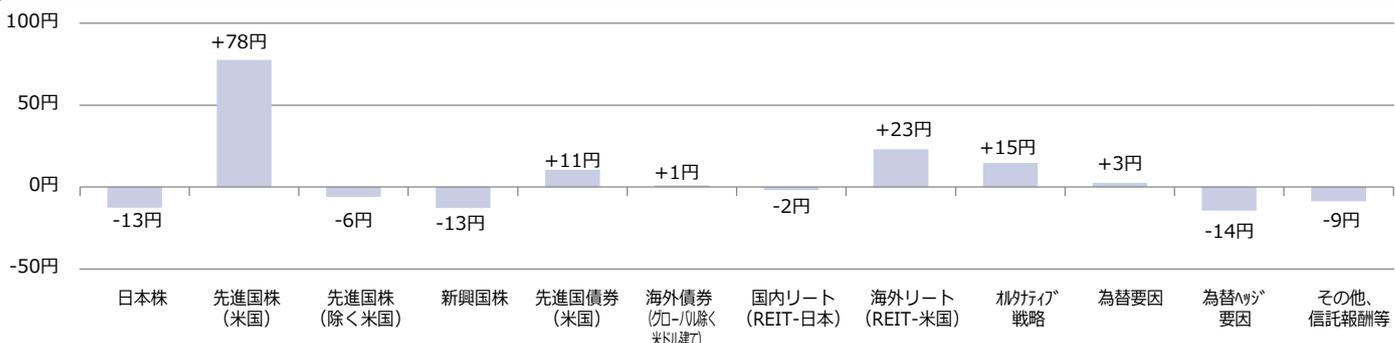
資産クラス	投資対象ファンド（投資信託証券）			
	名称 ベンチマーク	配分比率	月間騰落率	月間寄与額 (概算値)
日本株	TOPIX連動型上場投資信託	9.7%	-1.1%	-13
	TOPIX（東証株価指数）	-	-1.0%	-
先進国株（米国）	バンガード・S&P500 ETF	16.9%	+3.7%	+78
	S&P500指数	-	+3.6%	-
先進国株（除く米国）	バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF	4.8%	-1.0%	-6
	FTSE先進国オールキャップ（除く米国）インデックス	-	-1.4%	-
新興国株	バンガード・FTSE・エマージング・マーケットETF	2.4%	-4.4%	-13
	FTSEエマージング・マーケット・オールキャップ（含む中国A株）インデックス	-	-3.7%	-
先進国債券（米国）	バンガード・米国トータル債券市場ETF	11.9%	+0.7%	+11
	ブルームバーグ・バークレイズ米国総合浮動調整インデックス	-	+0.5%	-
海外債券 (グローバル除く米ドル建て)	バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF (米ドルヘッジあり)	5.7%	+0.1%	+1
	ブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合 (米ドル除く) 浮動調整 RIC基準インデックス (米ドルヘッジベース)	-	+0.1%	-
国内リート (REIT-日本)	NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	4.8%	-0.3%	-2
	東証REIT指数	-	-0.3%	-
海外リート (REIT-米国)	バンガード Real Estate ETF	4.8%	+3.9%	+23
	MSCI US Investable Market Real Estate 25/50 Transitionインデックス	-	+4.3%	-
オルタナティブ戦略	GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスA	36.1%	+0.3%	+15
	ベンチマークなし	-	-	-
現金、その他	現金、コール・ローン等	2.9%	0.0%	0

※ 上記は、当ファンドの組入対象であるそれぞれの投資対象ファンド（投資信託証券）とその基準価額の月間騰落率です。当ファンドに対する寄与額は概算値です。
 上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものです。
 上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、信託報酬控除後の値です。
 上記の月間騰落率は、GCIエンダウメントファンド（成長型）の基準価額の算出方法に合わせて、円ベースに換算した数値です。

配分比率



各資産の寄与額（概算）



GC | エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

GC | エンダウメントファンド（安定型）

基準価額の推移



※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
 ※ 基準価額 (分配金再投資) は、分配金 (税引前) を再投資したものと計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です (後述のファンドの費用をご覧ください。)

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末
基準価額	11,548円	11,501円
純資産総額	4,535百万円	4,270百万円

期間別騰落率

	騰落率
1 カ月	+0.41%
3 カ月	+1.08%
6 カ月	-0.76%
1 年	+7.84%
3 年	-
設定来	+15.48%

※ ファンドの騰落率は、分配金 (税引前) を再投資したものと計算しています。

分配の推移 (1 万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 0 円

決算期	2016年9月期	2017年9月期	-
分配金	0円	0円	-円

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、または分配金が支払われない場合があります。

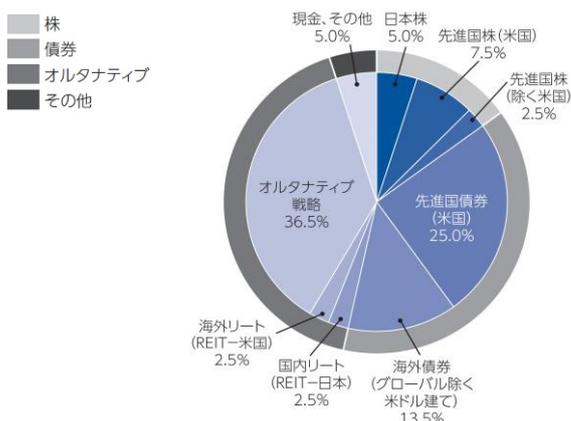
参考指標

	ファンド	東証株価指数 (TOPIX)	NOMURA-BPI総合インデックス
年率リターン	+5.1%	+9.4%	+1.3%
標準偏差	4.7%	19.0%	2.2%
下方偏差	5.2%	20.0%	2.3%
シャープレシオ	1.10	0.50	0.61
ソルティノレシオ	0.99	0.47	0.59
最大ドローダウン	-7.8%	-25.4%	-4.5%
相関	-	0.54	-0.05

※ 参考指標は全て円ベース。当ファンド設定来の期間で算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を250日として計算。時点：2018年8月31日。

※ 当月より、下方偏差とソルティノレシオの算出基準を変更しております。

基本資産配分 (作成基準日時点)



資産クラス	基本資産配分比率
日本株	5.0%
先進国株 (米国)	7.5%
先進国株 (除く米国)	2.5%
先進国債券 (米国)	25.0%
海外債券 (グローバル除く米ドル建て)	13.5%
国内リート (REIT-日本)	2.5%
海外リート (REIT-米国)	2.5%
オルタナティブ戦略	36.5%
現金、その他	5.0%
合計	100.0%

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

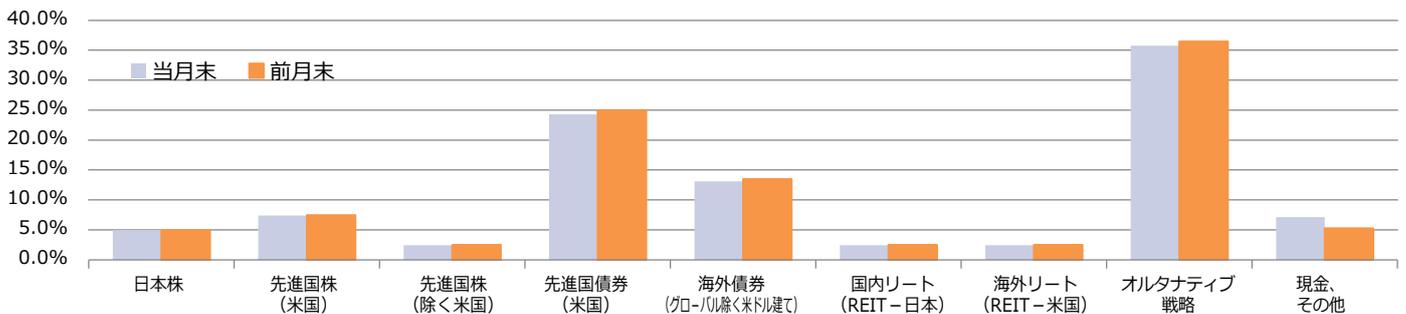
GCIエンダウメントファンド（安定型）

投資対象ファンド（投資信託証券）の状況

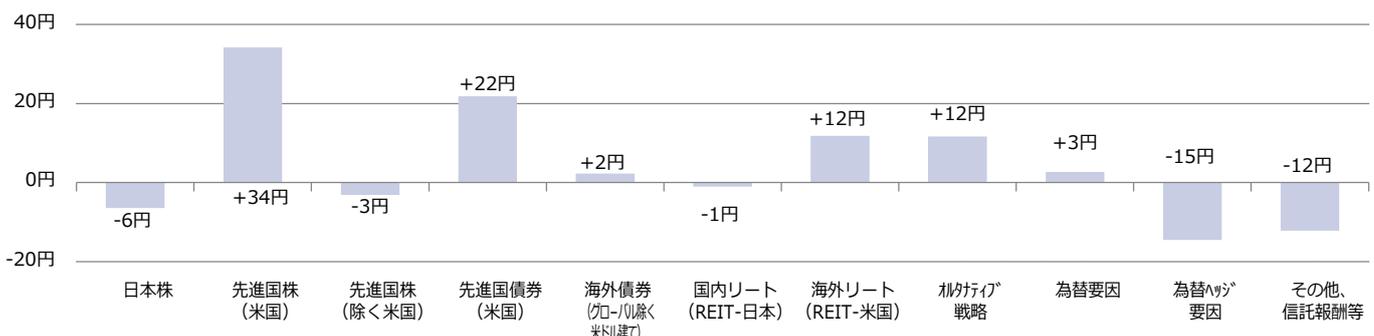
資産クラス	投資対象ファンド（投資信託証券）			
	名称 ベンチマーク	配分比率	月間騰落率	月間寄与額 (概算値)
日本株	TOPIX連動型上場投資信託	5.0%	-1.1%	- 6
	TOPIX（東証株価指数）	-	-1.0%	
先進国株（米国）	バンガード・S&P500 ETF	7.4%	+3.7%	+34
	S&P500指数	-	+3.6%	
先進国株（除く米国）	バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF	2.5%	-1.0%	- 3
	FTSE先進国オールキャップ（除く米国）インデックス	-	-1.4%	
先進国債券（米国）	バンガード・米国トータル債券市場ETF	24.3%	+0.7%	+22
	ブルームバーグ・パークレイズ米国総合浮動調整インデックス	-	+0.5%	
海外債券 (グローバル除く米ドル建て)	バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF（米ドルヘッジあり）	13.1%	+0.1%	+2
	ブルームバーグ・パークレイズ・グローバル総合（米ドル除く） 浮動調整 RIC基準インデックス（米ドルヘッジベース）	-	+0.1%	
国内リート（REIT-日本）	NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信	2.4%	-0.3%	- 1
	東証REIT指数	-	-0.3%	
海外リート（REIT-米国）	バンガード Real Estate ETF	2.5%	+3.9%	+12
	MSCI US Investable Market Real Estate 25/50 Transitionインデックス	-	+4.3%	
オルタナティブ戦略	GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスA	35.8%	+0.3%	+12
	ベンチマークなし	-	-	
現金、その他	GCIマネーボールマザーファンド	3.1%	0.0%	0
	ベンチマークなし	-	-	
	現金、コール・ローン等	4.0%	0.0%	0

※ 上記は、当ファンドの組入対象であるそれぞれの投資対象ファンド（投資信託証券）とその基準価額の月間騰落率です。当ファンドに対する寄与額は概算値です。
 上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものです。
 上記の月間騰落率の計算に用いる基準価額は、信託報酬控除後の値です。
 上記の月間騰落率は、GCIエンダウメントファンド（安定型）の基準価額の算出方法に合わせて、円ヘッジベースに換算した数値です。

配分比率



各資産の寄与額（概算）



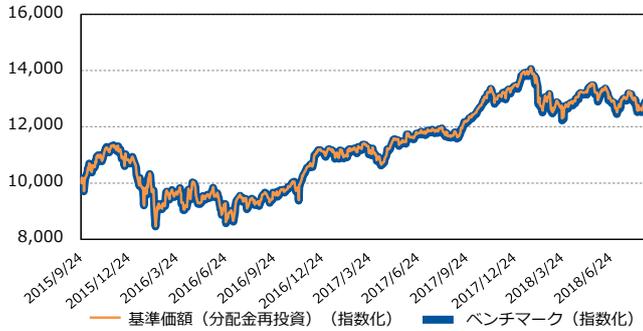
GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

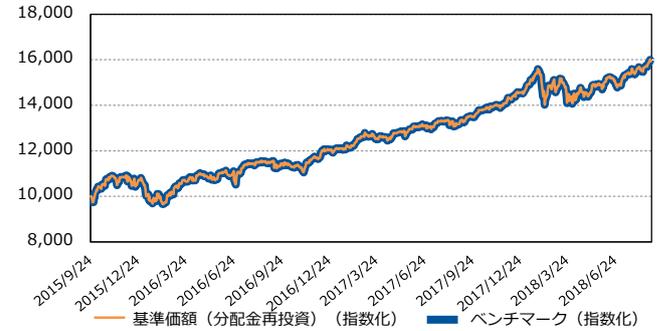
設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

投資対象ファンド（投資信託証券）—上場投資信託（ETF）の基準価額推移

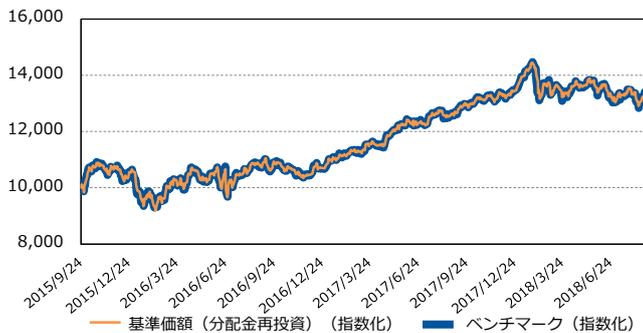
(1) TOPIX連動型上場投資信託



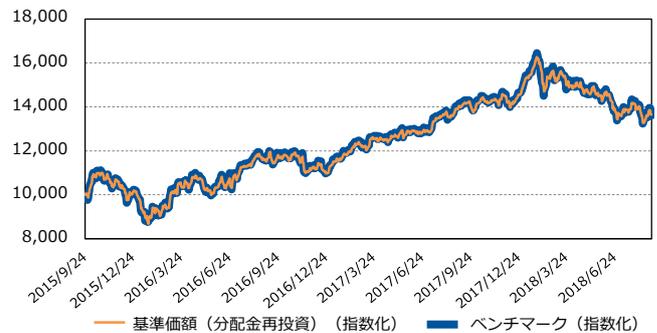
(2) バンガード・S&P500 ETF



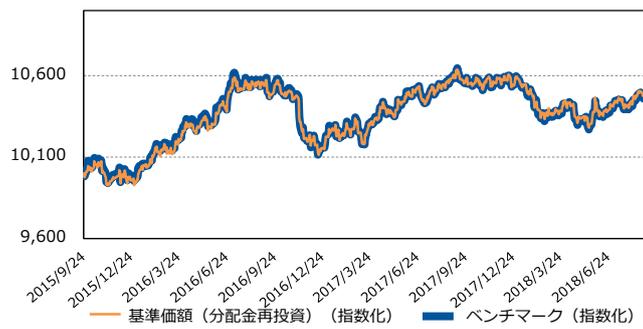
(3) バンガード・FTSE先進国市場（除く米国）ETF



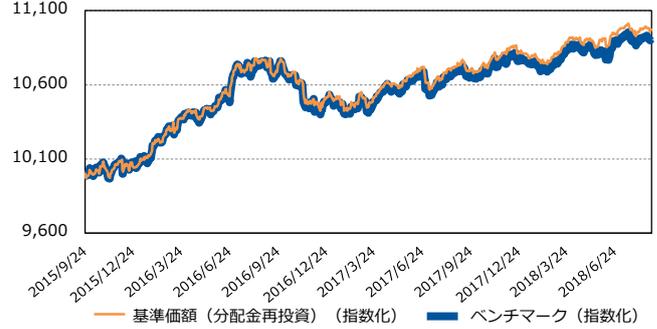
(4) バンガード・FTSE・エマージング・マーケットETF



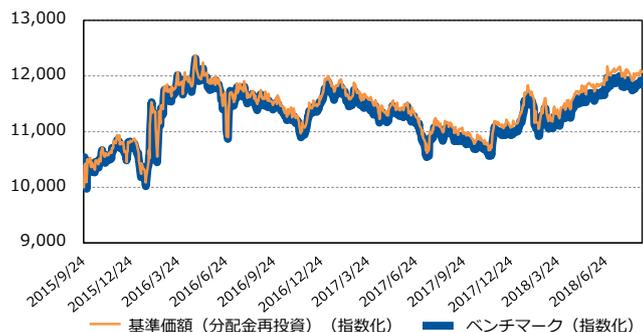
(5) バンガード・米国トータル債券市場ETF



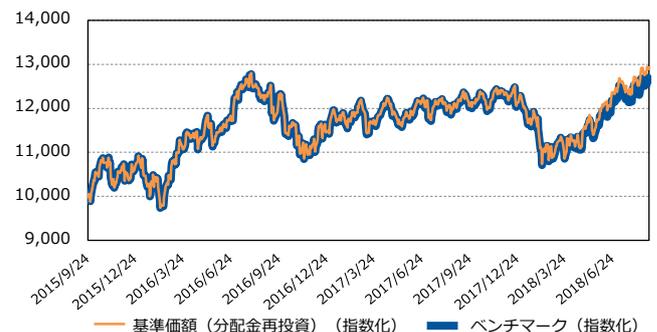
(6) バンガード・トータル・インターナショナル債券ETF (米ドルヘッジあり)



(7) NEXT FUNDS 東証REIT指数連動型上場投信



(8) バンガード Real Estate ETF



※ 上記グラフは、当ファンドの組入対象であるそれぞれの上場投資信託（ETF）の基準価額を、組入開始日を10,000として指数化し、作成基準日までを表示したものです。
 ※ 基準価額（分配金再投資）は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

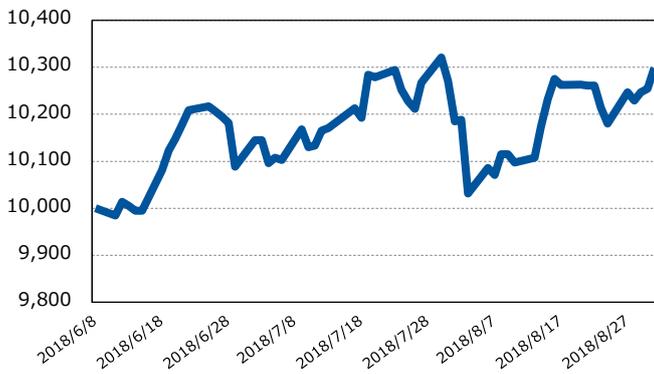
GC I エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

投資対象ファンド（投資信託証券）－GC I システムティック・マクロファンド Vol10 クラスAの資産の状況

基準価額（指数化）の推移



期間別騰落率

	ファンド
1 カ月	+0.27%
3 カ月	-
6 カ月	-
1 年	-
3 年	-
組入開始来	+2.98%

※ 上記グラフは、「GC I システムティック・マクロファンド Vol10 クラスA」の当ファンド計上日ベースの基準価額を、当ファンドへの組入開始日を10,000として指数化し、作成基準日までを表示したものです。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

2018年6月に、GCIシステムティック・マクロファンド Vol25 クラスAからGCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスAへ投資対象の変更を行いました。両ファンドはボラティリティ水準が異なるものの実質的な運用内容は同一であり、当変更はポートフォリオ構成の単純化を目的としたもので、GC I エンダウメントファンド（成長型/安定型）の運用内容を変更するものではありません。また当変更の際にファンドに手数料等の追加負担は発生しておらず、変更によるパフォーマンスへの影響は軽微となっています。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

ポートフォリオの状況

当月も独自開発の動的ポートフォリオ・モデルに基づき、世界各国の株式市場・債券市場・為替市場へ分散投資を行いました。

当月は月間を通じて+0.27%のリターンとなりました。当月は米トルコ間の対立からトルコリラが急落し、その動きがその他の金融市場にも波及して、特に新興国市場にネガティブなインパクトをもたらしました。その他にもNAFTA再交渉等、米国のその他の国々との外交情勢に注目が集まります。当戦略では、グローバル金融市場の中で足下最も動きの強い米国債の下落を収益化すべく、米国債の売り持ちポジションを主要ポジションに据えています。このような環境下で安全資産である米国債価格は上昇しました。米国債ポジションからは損失が発生しましたが、リスク回避時に収益をあげるポジションとして十分な量の豪ドル売り/米ドル買いのポジションが組み込まれていたことで、損失が相殺されてプラスのリターンとなりました。

米金利上昇の動きは足下で弱まりつつありますが、長期的には依然最も強い動きであるため当戦略では引き続き米国債の売りポジションが主要なポジションとなっています。その主要ポジションから損失が生まれる際に資産間の相関を活用して収益をあげるポジションを組み込んでいくことが当戦略の特徴ですが、市場のリスク回避時に収益を達成する資源国通貨売り/米ドル買いのポジションを中心として、日本国債やドイツ国債の買いポジションがその目的で組み込まれています。引き続き、最新の資産間の相関関係を反映しながら、リスク抑制に最適なポジションが組み込まれるようポートフォリオが構築されていきます。

文責：GCIシステマティック・マクロファンド 運用チーム

参考指標

	GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスA	HFRX Global Hedge Fund	HFRX Macro: Systematic Diversified CTA
年率リターン	-	+0.4%	-2.1%
標準偏差	-	3.3%	8.7%
下方偏差	-	3.6%	8.9%
シャープレシオ	-	0.14	N/A
ソルティノレシオ	-	0.13	N/A
最大ドローダウン	-2.8%	-6.8%	-3.7%
相関	-	-	-

※参考指標は全て円ベース。当ファンドへの組入開始来の期間で算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を250日として計算。時点：2018年8月31日。リスクフリー・レート=LIBOR日本円1カ月。HFインデックスはドル円金利差(LIBOR 1カ月)を勘案し円ベースで算出。シャープレシオ/ソルティノレシオがマイナス値の場合はN/Aで表示。

※GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスAは、設定後一年が経過していないため、最大ドローダウン以外の参考指標は記載していません。

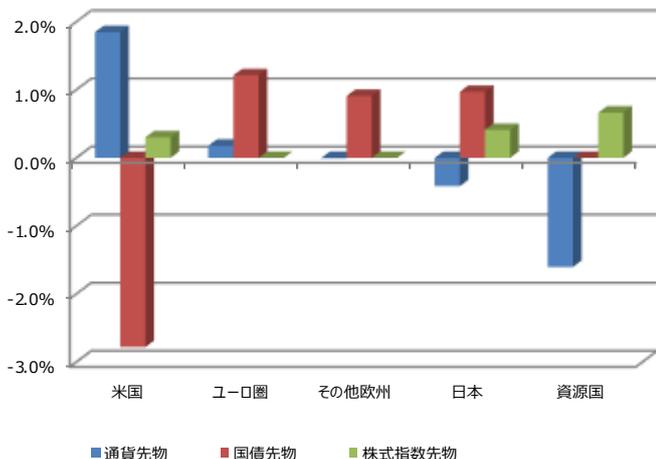
※当月より、下方偏差とソルティノレシオの算出基準を変更しております。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

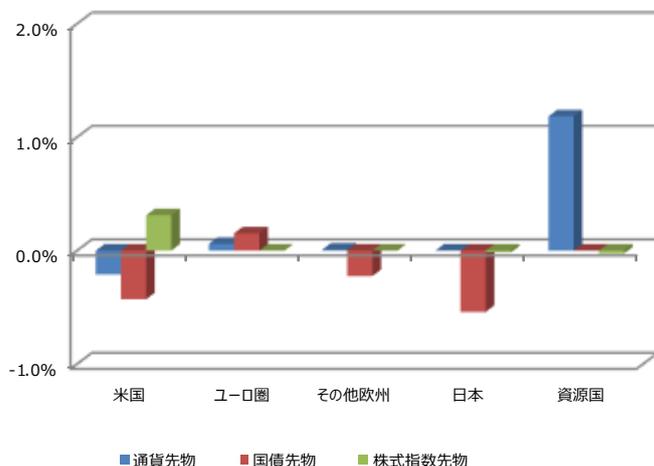
追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

当月末時点でのポートフォリオ



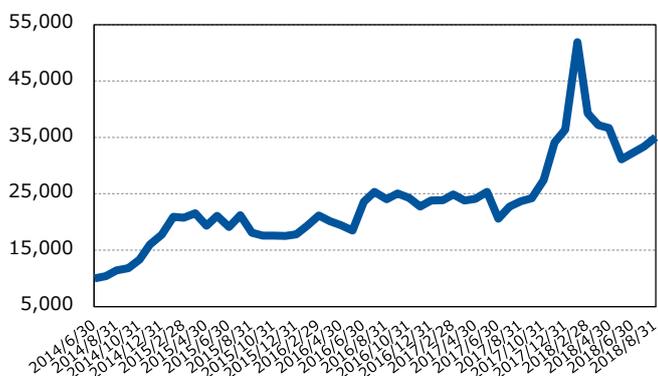
損益内訳



※ 上記ポートフォリオ断面のグラフは、ポジションを構築するにあたって差し入れる証拠金の対純資産総額比率です。マイナスはショートポジションを意味します。証拠金はリスク見合いで差し入れるものであるため、当該指標はポートフォリオにおけるリスクをより実態に近い形で表すものと考えられています。

<ご参考> GCI システムティック・マクロファンドの設定来の運用実績

基準価額（指数化）の推移



※ 上記グラフは、「GCI システムティック・マクロファンド クラスS」の基準価額を、同ファンドの運用開始日を10,000として月次ベースで指数化したものです。クラスAはクラスSと同様の運用を行っていますが、報酬体系等が異なるため、単純な比較はできません。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

参考指標

	GCI システムティック・マクロファンド クラスS	HFRX Global Hedge Fund	HFRX Macro: Systematic Diversified CTA
年率リターン	+35.1%	+0.4%	+0.9%
標準偏差	40.0%	3.7%	8.2%
下方偏差	34.4%	4.6%	8.5%
シャープレシオ	0.88	0.12	0.11
ソルティノレシオ	1.02	0.09	0.11
最大ドローダウン	-40.11%	-8.93%	-9.26%
相関	-	0.33	0.79

※ 参考指標は全て円ベース。「GCI システムティック・マクロファンド クラスS」の設定来の期間における月次リターンを用いて算出。年率リターン・標準偏差・下方偏差は1年を12か月として計算。時点：2018年8月31日。リスクフリー・レート=LIBOR日本円1か月。HFインデックスはドル円金利差(LIBOR 1か月)を勘案し円ベースで算出。シャープレシオ/ソルティノレシオがマイナス値の場合はN/Aで表示。

※ 当月より、下方偏差とソルティノレシオの算出基準を変更しております。

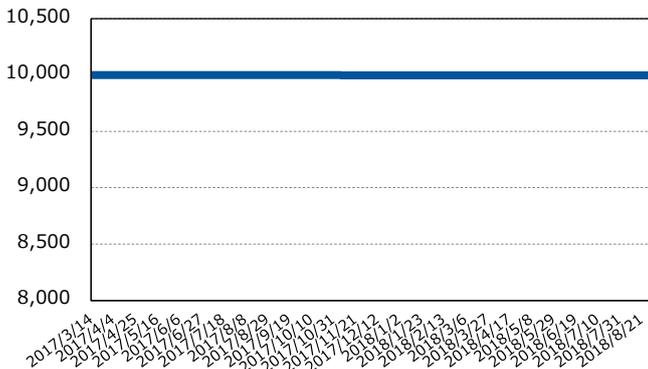
GC I エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

投資対象ファンド（投資信託証券）－GC I マネープールマザーファンドの状況

基準価額（指数化）の推移



期間別騰落率

	ファンド
1 ヵ月	0.00%
3 ヵ月	0.00%
6 ヵ月	-0.01%
1 年	-0.03%
3 年	-
組入開始来	-0.04%

※ 上記グラフは、「GC I マネープールマザーファンド」の基準価額を、同ファンドの運用開始日を10,000として月次ベースで指数化したものです。
 ※ 基準価額は、信託報酬控除後の値です。

2017年4月より、GCIマネープールマザーファンドへの投資を開始致しました。

GCIエンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
作成基準日 : 2018年 8月31日
決算日 : 毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間 : 原則として無期限

組入資産の市場動向コメント

<株式>

2018年8月のグローバル株式市場は、小幅に上昇しました。グローバル株式指数の代表格であるMSCIオールカントリー・ワールド指数の月間騰落率は、+0.59%でした。

米国では、好調な企業決算が支えとなりましたが、トルコ情勢の緊迫化を背景に、月前半の株式市場は揉み合いの展開となりました。しかしパウエルFRB議長がジャクソンホールでの公演で、利上げを急がない方針を示したことが好感され、月後半には再び力強く上昇しました。欧州の株式市場は、トルコ情勢の影響を受けたことに加え、英国のEU離脱交渉が難航していることなどが嫌気され、下落しました。日本では、トルコ情勢の緊迫化と米中貿易摩擦懸念の後退など好材料と悪材料が交錯し、日経平均株価が上昇した一方でTOPIXは下落となりました。

<債券>

2018年8月のグローバル債券市場は、上昇が目立つ展開となりました。

米国では、トルコ情勢の緊迫化による安全資産としての需要や、パウエルFRB議長がジャクソンホールでの講演で利上げを急がない方針を示したことを受け、債券価格は小幅に上昇しました。欧州では、トルコ情勢やユーロ圏景気の鈍化懸念等を受け、債券価格は上昇しました。日本では、日銀が前月末の金融政策決定会合で政策の修正を発表したことなどを受け、債券価格は下落しました。

クレジット市場におけるクレジット・スプレッド(企業の信用力を示す、国債に対する上乗せ利回り)は、拡大しました。トルコ情勢が緊迫化し、先行きへの不透明感が高まる中、前月にスプレッドが大きく縮小した反動もあり、当月は拡大となりました。

<不動産投資信託 (REIT) >

2018年8月のREIT市場は、まちまちの展開となりました。

米国では、主要REITの決算が好調だったことや、パウエルFRB議長が利上げを急がない方針を示し、長期金利が低下したことなどの影響を受け、REIT市場は上昇しました。欧州では、長期金利は低下したものの、トルコ情勢の緊迫化に伴うトルコリラ急落を受けて、トルコ向け債権を保有する金融機関をはじめとした欧州経済への影響が懸念され、REIT市場は下落しました。

日本では、不動産市況は引き続き堅調となったものの、前月の日銀金融政策決定会合を受けた長期金利の上昇や、トルコ情勢の緊迫化に伴うリスク回避的な動きの影響を受け、REIT市場は小幅に下落しました。用途別では、オフィス向けがアウトパフォーマンスした一方、住宅向け、商業・物流施設向けはアンダーパフォーマンスしました。

<ヘッジファンド市場全般>

2018年8月のヘッジファンド市場は、プラスとなりました。オルタナティブ戦略の代表格であるヘッジファンド市場の値動きを示す、HFRX Global Hedge Fund Indexは、+0.45%となりました。トルコ情勢の緊迫化によるリスク回避的な動きや、パウエルFRB議長の講演を受けた長期金利の上昇など材料が続く月となりました。このような中、グローバルマクロ戦略、CTA戦略が大きくアウトパフォーマンスした一方、株式ロングショート戦略、イベントドリブン戦略はアンダーパフォーマンス、株式マーケットニュートラル戦略はほぼインデックス並みとなりました。

文責 : GCIエンダウメントファンド運用チーム
インベストメント・マネジャー 上野 慎一郎

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

投資リスク

基準価額の変動要因

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。**

当ファンドが有する主なリスク要因は以下の通りです。

株価変動リスク	株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
金利変動リスク	債券などの価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。なお、債券などが変動金利である場合、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の場合と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者などの財務状況の変化などおよびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。債券などの価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
REITの価格変動リスク	REITの価格は、不動産市況(不動産稼働率、賃貸料、不動産価格など)、金利変動、社会情勢の変化、関係法令・各種規制などの変更、災害などの要因により変動します。また、REITおよびREITの運用会社の業績、財務状況の変化などにより価格が変動し、基準価額の変動要因となります。
為替変動リスク	為替相場は、各国の経済状況、政治情勢などの様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、当ファンドおよび投資対象ファンド(投資信託証券)において、外貨建資産について、為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図る場合がありますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分のコストがかかることにご留意ください。
信用リスク	有価証券等の発行体などが財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金などをあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、またはそれが予想される場合には、有価証券等の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。
カントリーリスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化などにより市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、方針に沿った運用が困難となり、基準価額が下落することがあります。特に、新興国への投資には、先進国と比較して政治・経済および社会情勢の変化が組入銘柄の価格に及ぼす影響が相対的に高い可能性があります。
流動性リスク	時価総額が小さい、取引量が少ないなど流動性が低い市場、あるいは取引規制などの理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。
ヘッジファンドの運用手法に係るリスク	投資対象ファンド(投資信託証券)においては、直接もしくは実質的に現物有価証券、デリバティブや為替予約取引などの買建てや売建てによりポートフォリオを組成することがあり、買い建てている対象が下落した場合もしくは売り建てている対象が上昇した場合に損失が発生し、当ファンドの基準価額が影響を受け、投資元本を割り込むことがあります。また、投資対象ファンド(投資信託証券)の純資産総額を上回る買建て、売建てを行う場合があるため、投資対象ファンド(投資信託証券)の基準価額は現物有価証券に投資する場合と比べ大きく変動することがあり、投資元本を割り込むことがあります。また、ヘッジファンドのパフォーマンスは、通常、運用者の運用能力に大きく依存することになるため、市場の動向に関わらず、損失が発生する可能性があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
作成基準日 : 2018年 8月31日
決算日 : 毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間 : 原則として無期限

投資リスク

その他の留意点

●収益分配金に関する留意事項

分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は、前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

●当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

リスクの管理体制

運用リスクの管理については、運用部門から独立したリスク・マネジメント・グループが日々運用状況の分析およびモニタリングを行い、原則として週次で開催される運用リスク管理会議にて運用リスクの適切性を検証・評価し、リスク管理会議および運用政策会議に報告されます。また、問題が生じた場合には速やかに臨時で招集される運用政策会議に報告が行われ、その対応策が検討・決定される体制となっています。

事務リスク等の管理については、原則として月次で開催される事務リスク等管理会議において、運用に係る業務運営の適切性が検証され、リスク管理会議に報告される体制となっています。

そして、リスク管理会議において、各リスクの発生の有無・状況の把握、対応方針の検討・決定および進捗状況の管理などを行い、重要な事項はさらに運用政策会議に報告される体制となっています。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

手続・手数料等

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額とします。 (ファンドの基準価額は1万口あたりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して7営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時までに販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。
購入・換金の 申込受付不可日	ニューヨークの銀行休業日またはニューヨーク証券取引所の休業日 ※詳しい申込受付中止日については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。
購入の申込期間	2018年6月26日から2018年12月25日まで ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新されます。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口解約には別途制限を設ける場合があります。
購入・換金申込 受付の中止 および取消し	金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みを取り消すことがあります。
信託期間	原則として無期限(2015年9月25日設定)
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下ることとなった場合などは、償還となる場合があります。
決算日	毎年9月25日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回、毎決算時に委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して分配金額を決定します。 収益分配金の受取方法により、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の2つの申込方法があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託金の限度額	各ファンドについて10兆円
公 告	原則として電子公告の方法により行い、委託会社のホームページにて行います。 URL : https://www.gci.jp/ ※ホームページアドレスは7月25日より変更しています。
運用報告書	毎決算時および償還時に交付運用報告書を作成し、販売会社を通じて知れている受益者に交付します。
スイッチング	販売会社によっては、各ファンド間でスイッチングが可能です。 ※スイッチングの際には換金時と同様に換金されるファンドに対して税金などをご負担いただきます。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度(NISA)および未成年者少額投資非課税制度(ジュニアNISA)の適用対象です。 配当控除・益金不算入制度の適用はありません。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用																										
購入時手数料	<p>購入申込受付日の翌々営業日の基準価額に1.08%(税抜1.0%)を上限として、販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。</p> <p>購入時手数料は、商品説明、募集・販売の取扱事務などの対価として、販売会社にお支払いいただくものです。</p>																									
信託財産留保額	<p>換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に0.1%の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。</p>																									
投資者が信託財産で間接的に負担する費用																										
運用管理費用（信託報酬）	<p>純資産総額に対し年率0.702%(税抜0.65%)以内 運用管理費用(信託報酬)は毎日計算し、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。信託報酬率の配分はファンドの純資産総額の残高に応じて変更します。 信託報酬の配分ならびにこれらに対価とする役務の内容は以下のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>純資産総額</th> <th>運用管理費用(信託報酬)</th> <th>委託会社</th> <th>販売会社</th> <th>受託会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>～500億円以下部分</td> <td>0.702% (税抜0.65%)</td> <td>0.324% (税抜0.3%)</td> <td>0.324% (税抜0.3%)</td> <td>0.054% (税抜0.05%)</td> </tr> <tr> <td>500億円超～1,000億円以下部分</td> <td>0.6264% (税抜0.58%)</td> <td>0.2916% (税抜0.27%)</td> <td>0.2916% (税抜0.27%)</td> <td>0.0432% (税抜0.04%)</td> </tr> <tr> <td>1,000億円超部分～</td> <td>0.5508% (税抜0.51%)</td> <td>0.2592% (税抜0.24%)</td> <td>0.2592% (税抜0.24%)</td> <td>0.0324% (税抜0.03%)</td> </tr> <tr> <td>役務の対価</td> <td>運用管理費用(信託報酬)=運用期間中の基準価額×信託報酬率</td> <td>当ファンドの運用、受託銀行への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書などの作成など</td> <td>購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務など</td> <td>当ファンドの財産の管理、委託会社からの指図の実行など</td> </tr> </tbody> </table> <p>投資対象ファンド(投資信託証券)における運用報酬等：年率0.488%～0.500%程度 ※当ファンドにおいては成功報酬はかかりませんが、指定投資信託証券においては、上記の運用報酬等の他に成功報酬がかかる場合があります。そのため、上記の値は今後変更する場合があります。 実質的な負担：年率1.190%～1.202%(税抜1.138%～1.150%)程度 ※当ファンドの運用管理費用(信託報酬)に投資対象ファンド(投資信託証券)の運用報酬等を合わせた、投資者が実質的に負担する額の合計です。 ※上記の値はあくまで目安であり、指定投資信託証券の実際の組入れ状況等により変動する場合があります。</p>	純資産総額	運用管理費用(信託報酬)	委託会社	販売会社	受託会社	～500億円以下部分	0.702% (税抜0.65%)	0.324% (税抜0.3%)	0.324% (税抜0.3%)	0.054% (税抜0.05%)	500億円超～1,000億円以下部分	0.6264% (税抜0.58%)	0.2916% (税抜0.27%)	0.2916% (税抜0.27%)	0.0432% (税抜0.04%)	1,000億円超部分～	0.5508% (税抜0.51%)	0.2592% (税抜0.24%)	0.2592% (税抜0.24%)	0.0324% (税抜0.03%)	役務の対価	運用管理費用(信託報酬)=運用期間中の基準価額×信託報酬率	当ファンドの運用、受託銀行への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書などの作成など	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務など	当ファンドの財産の管理、委託会社からの指図の実行など
純資産総額	運用管理費用(信託報酬)	委託会社	販売会社	受託会社																						
～500億円以下部分	0.702% (税抜0.65%)	0.324% (税抜0.3%)	0.324% (税抜0.3%)	0.054% (税抜0.05%)																						
500億円超～1,000億円以下部分	0.6264% (税抜0.58%)	0.2916% (税抜0.27%)	0.2916% (税抜0.27%)	0.0432% (税抜0.04%)																						
1,000億円超部分～	0.5508% (税抜0.51%)	0.2592% (税抜0.24%)	0.2592% (税抜0.24%)	0.0324% (税抜0.03%)																						
役務の対価	運用管理費用(信託報酬)=運用期間中の基準価額×信託報酬率	当ファンドの運用、受託銀行への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書などの作成など	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務など	当ファンドの財産の管理、委託会社からの指図の実行など																						
その他の費用・手数料	<p><売買委託手数料など> 有価証券売買時の売買委託手数料、立替金の利息、ファンドに関する租税などが信託財産から支払われます。これらの費用は運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。</p> <p><信託事務の諸費用> 監査費用、印刷費用、計理業務およびこれに付随する業務に係る費用などの諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.1%を上限として日々計上され、毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。</p>																									

※投資者の皆さまにご負担いただく手数料等の合計額については、当ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

GC I エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
 作成基準日 : 2018年 8月31日
 決算日 : 毎年9月25日
 (休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 原則として無期限

委託会社・その他の関係法人の概要

委託会社 株式会社GC I アセット・マネジメント
 [ファンドの運用の指図を行う者]

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第436号
 加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会

照会先 電話番号 03（3556）5040（営業日の9:00～17:00）
 ホームページ <https://www.gci.jp>

受託会社 三菱UFJ信託銀行株式会社
 (再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
 [ファンドの財産の保管及び管理を行う者]

販売会社

金融商品取引業者等の名称	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	日本商品先物取引協会
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○		○	○	
株式会社新生銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○		○		
高木証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第20号	○				
三田証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第175号	○				
共和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第64号	○	○			
長野証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第125号	○				
株式会社栃木銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第57号	○				
株式会社イオン銀行	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○				

- ・ お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、販売会社へお申し出ください。
- ・ 販売会社は今後変更となる場合があります。

GCI エンダウメントファンド（成長型／安定型）

追加型投信／内外／資産複合

設定日 : 2015年 9月25日
作成基準日 : 2018年 8月31日
決算日 : 毎年9月25日
(休業日の場合は翌営業日)
信託期間 : 原則として無期限

＜ご留意事項＞

- 当資料は、株式会社GCIアセット・マネジメント（以下「当社」といいます）が、当ファンドの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、必ず最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料記載のデータや見通し等は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、参考として記載されたものであり、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。
- 投資信託は預金保険制度の対象ではありません。また、銀行が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

IT160711-01